

「保育者養成における電子ピアノの効果的な活用法」

林 麻由美（東京福祉大学短期大学部）

入学者の大半がピアノ初心者である保育者養成校での音楽指導は、限られた時間内に保育現場で必要なピアノ演奏技術や、子どもの歌の弾き歌い技術を効率良く行わなければならない。教員は、その勉強方法を具体的に明確に指示することが必要である。また弾き歌いは、たとえピアノ経験者であっても、保育者養成校で学習する新しい学びの一つとして、初心者同様の気持ちを持って取り組むべきであると考えている。弾き歌いはピアノ独奏の延長ではなく、アンサンブル的な要素を含んでいると発表者は考えている。ほとんどのピアノ経験者はそれまで独奏スタイルでの演奏がほとんどで、アンサンブルの経験は乏しいと思われる。そこで弾き歌いに関しては、これまでは初心者にも経験者にも全く同じ練習方法を提示し、個人レッスンで練習過程を一つ一つ確認しながら段階的に曲を仕上げている。

さて、今年度より所属校が変わり、このたび学生数20人の「保育表現技術演習」のクラス授業で、弾き歌いの演習を行った。音楽室には学生達に1人1台の電子ピアノが用意されている。通常であれば学生がヘッドフォンを使用しての個人練習をしている間に、課題曲が弾けているかどうかを教員がチェックをする、という形態をとるであろうが、今回は全員でのアンサンブルを試みた。まずはこれまでのように弾き歌いの個人の練習方法を次のように提示した。①右手練習 ②左手練習 ③歌だけの練習 ④右手+歌 ⑤左手+歌 ⑥両手+歌、の順で行う。④⑤の演習が弾き歌いの土台になるところと考え、これがしっかりできていなければ⑥には進めない。また④⑤においては躍動感ある曲目の場合は、具体的なメトロノームの数値を提示し、そのビートを聴きながら止まらないで最後まで弾けるようになるまで繰り返すように伝える。以上が練習方法である。今回はこの電子ピアノを利用して弾き歌いに向けての次の2つの演習を行なった。

- (1) 右手担当、左手担当、歌担当というようにパートに分かれて演奏し、お互いを聴き合う演習。
- (2) ④の個人練習において、電子ピアノの音量を少し下げて右手と歌のバランスのシミュレーションを行う。

このように電子ピアノが1人1台あるので、一人で行う練習だけでなくグループで聴き合いながらパート練習することができる。この方法はアンサンブル力の向上、即ち他者、また他声部を聴きながら演奏する力が育ち、弾き歌いの力も向上すると考える。発表者が約10年にわたり、連弾、ピアノ二重奏を専門に師事していた師匠から学び、実践してきた経験からもそのように考える。